

磐梯山登山道の状況

【目的】 磐梯山は磐梯朝日国立公園内にあり、深田久弥氏の日本百名山にも数えられ、日本ジオパークにも認定されていることから一般登山愛好者はもとより学校登山や百名山ツアーなど多くの登山者が訪れる。

道迷いやコースを間違える登山者が後を絶たない。訪れる登山者に安心して安全に楽しんでもらうために、登山道の道標や看板、危険箇所の整備が必要である。また、貴重な高山植物の保護及び近い将来を見据えた地形の変化等の監視も重要な課題であると思う。

以上のことを踏まえて、自然保護の状況、各登山道の危険箇所、自然保護及び安全上の要継続監視箇所、道標や看板の状況、表示希望箇所、登山口の状況などについての登山道の状況を調査した。

【調査日】

5月30日（渋谷コース）	6月28日（裏磐梯コース）
6月29日（赤埴林道コース）	8月10日（猪苗代コース）
8月19日（翁島コース）	9月3日（翁島コース）
9月10日（川上コース）	9月22日（赤埴林道コース）
10月10日（翁島コース）	10月19日（猪苗代コース）
10月24日（川上コース）	

【調査者】 江花 俊和（猪苗代山岳会、日本山岳会）

【結果】 結果の具体的な内容については、4ページ以降に記載しています。

自然保護	No. 1、2	携帯トイレ回収ボックス
	No. 3、4	赤埴山のビニールシート
	No. 5、6	お花畑の踏込跡
	No. 7	黄金清水の下部の状態
要継続監視箇所 （自然保護）	No. 1、2、3	火口の植生の繁茂
	No. 4	弘法清水の広場
危険箇所	No. 1	火口の土石流
	No. 2、3、4	火口原の状態とぬかるみ
	No. 5、6	岩場とロープ（翁島コース）
要継続監視箇所 （安全）	No. 1、2、3、4	火口の地形
	No. 5、6	火口壁の階段
	No. 7	川上・裏磐梯コース分岐点

道 標 ・ 看 板	No. 1	噴火口・赤沼分岐
	No. 2	川上・裏磐梯コース分岐
	No. 3	赤埴山頂・トラバースコース分岐
	No. 4	沼ノ平（猪苗代コース）
	No. 5	壊れた道標（渋谷コース）
	No. 6	傾いた看板（猪苗代・渋谷コース分岐）
	No. 7	壊れた道標（川上コース）
表 示 希 望 箇 所	No. 1、2	賽ノ河原（翁島コース）
	No. 3	天狗岩（翁島コース）
	No. 4、5	遥拝所跡（翁島コース）
登 山 口	No. 1	猪苗代登山口
	No. 2、3	川上登山口
	No. 4	渋谷登山口の登山届箱
	No. 5	翁島登山口
	No. 6	翁島コースのゴンドラ終点
	No. 7、8	赤埴林道終点
ジオパーク説明板	No. 1	翁島登山口
	No. 2	裏磐梯スキー場上
	No. 3	銅沼
そ の 他 ・ 主 な 地 点	No. 1	三角点
	No. 2	磐梯明神の祠
	No. 3	赤埴山頂の石碑
	No. 4	三合目の石碑
	No. 5	黄金清水
	No. 6、7	弘法清水、小屋
そ の 他 ・ 山 容	No. 1	沼ノ平からの山頂
	No. 2	赤埴山からの山頂
	No. 3	山頂と天狗岩
	No. 4	鏡沼と山頂

- 【考 察】
1. 磐梯山は6つの登山口（赤埴林道は除く）があつて登山道の管理が容易ではないが、道標の立て替えや火口壁の階段設置などが実施され、毎年7月から8月にかけて各登山道の刈払いが行われているが、県外の山を歩いて感じることは、道標、橋、足場などの登山道の整備が良いとは言えないので、登山者が安心して歩ける安全な登山道への更なる取組みが必要と思う。特に八方台コースのぬかるみの解消と弘法清水～山頂間の整備は急務であると思う。
 2. お花畑の立入禁止の箇所への踏み跡が数箇所見られるので、自然保護上これらを含めて対策と見直しが必要であると思う。この踏み跡は展望を楽しみたいからだと思われるので、1ヶ所を開放することも必要と思われる。
 3. 携帯トイレは大分普及したものの、登山道周辺にまだ跡が残る。トイレの無い登山口には簡易トイレでもよいので設置が必要と思う。また、携帯トイレを宿泊施設に置いてもらうなど普及策が望まれる。
 4. 噴火口跡については、土石流の発生が起きやすいため登山道の管理が重要であると共に、噴火後の地形や植生の変化にも目を向けていかなければならないのではないかと思う。
 5. 熊に襲われる事故があるが、登山者の少ない川上や渋谷コースでは熊除けの鈴などの携行を勧めることが必要だと思う。
 6. 樹木や花については触れなかったが、必要であれば次年度からにしたい。